

## 共同研究プロジェクト

## 「福祉に生かす代替療法－音楽・気功・チベット医学」

## 活動報告

馬場 雄司・濱野 清志

本研究は、近代医療を補完するものとして注目されているさまざまな代替療法のうち、チベット医学、気功、音楽療法を軸として、障害者・高齢者などの施設における実践と、地域に開かれた健康維持、生活活性化のための実践、などを通してその効果を検討しようとするものである。

2010年度も、前年度に引き続き、いくつかの活動を展開している。

一つは、永澤哲を中心とするチベット医学の実践として、7月17日に本学弘誓館において行った公開講演会である。前年度に続き、イタリアを拠点として世界的にチベット医学の知識体系を普及させようとしている国際伝統チベット医学研究院院長のニダ・チェナクツァン氏に「チベット医学とスピリチュアリティー 瞑想と癒し」と題する講演をお願いし、本学人間学研究所長秋田巖にコメンテーターとしてご参加いただいた。

また、本学フィールドリサーチオフィスのプロジェクトで展開してきた「東洋的身体技法研究会」（顧問・濱野清志）の地域に開かれた気功教室の運営活動を、昨年度より本研究の活動へとつなげ、更に馬場雄司のゼミ活動と連動して「気功と音楽の癒し」の活動へと展開してきた。今年度も、5月26日、10月27日、2月9日と3回に渡って、介護老人保健施設第二京しみずへの訪問活動を行った。この活動は、2011年3月に開かれた馬場の所属する音楽療法学会で

のワークショップでも紹介された。

また、馬場雄司は、『竹の音力：京都文教大学馬場ゼミ生による、大分カテリーナの森でのフィールドワーク体験談』と題するワークショップを2011年3月4日に開いている。ここでは、大分で自然体験と音楽活動をミックスした新しい暮らしの在り方を展開するカテリーナファミリーを迎え、竹楽器作りの体験を行った。カテリーナファミリーに加え、田中良太をゲストミュージシャンとして迎え、参加者自らの手作り楽器で作り出す音がかたたらす人間関係を活性化する力を体験した。

代替療法とは、多くは伝統的なそれぞれの土地に伝わる病や苦悩への対処の方法のうち一定のまとまりをもったものをいい、近年では、比較的近代から現代に生まれた、さまざまな治療技法も一部そこに含まれている。それは、西洋近代医学という、問題を部分に分けて対応する自然科学的方法論から生まれた医学がカバーしきれない、人として生きる上で生じる根本的で全人的な問題に対応しようとするものである。すなわち、地域に暮らす人が、地域につながって自分たちの生活を創造していく、そういう力が育つ可能性が、代替療法の背景に潜んでいる。こうした側面を実践を通じて、少しでも明確にすることができれば、と思っている。

今後は、本研究での活動への参加を通じて、地域の人自らが力を発見し創造する仕組みを考えていきたい。